

会 議 録

会 議 名	第2回 八王子市社会福祉審議会 高齢者福祉専門分科会 高齢者計画・介護保険事業計画策定部会
日 時	令和5年(2023年)4月26日 14時00分~16時00分
場 所	学園都市センター 第1セミナー室
出 席 者 氏 名	委 員 杉原 陽子委員、村上 正人委員、鈴木 長一委員、田中 泰慶委員(4名)
	臨 時 委 員 村山 洋史委員、島崎 誠委員、大井 みゆき委員、大島 和彦委員、 野島 啓子委員、新井 隆男委員、大竹 毅委員、井上 顕委員、八木 広行委員、 香川 正幸委員、土井 俊彦委員、牧野 友香委員 (12名)
	事 務 局 福祉部 高齢者いきいき課 吉本 知宏課長、辻 誠一郎主査、池田 光主任、吉村 航季主任 大内 夏奈主事、和泉 みのり主事 福祉政策課 柏田 恆希課長、辻野 文彦主査 高齢者福祉課 富山 佳子課長、田代 雅人課長補佐兼主査 介護保険課 中山 あずき課長、長谷部 晃一課長補佐兼主査、波多野 周主査
欠 席 者	竹内 将人委員
次 第	1 開会 2 報告 各種調査の結果について 3 議題 ワーク「計画で目指す未来」 4 事務連絡 5 閉会
公開・非公開の別	公開
傍 聴 人 の 数	3人
配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 各種調査の概要 ・資料2 各種調査の結果について ・資料3 高齢者計画・第8期介護保険事業計画進捗管理シート(調査結果反映版) ・資料4 ワーク「計画で目指す未来」 ・参考資料1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 集計結果(単純集計) ・参考資料2 在宅介護実態調査 集計結果(単純集計) ・参考資料3 在宅介護実態調査 集計結果(速報版) ・参考資料4 介護事業所調査 集計結果(単純集計) ・参考資料5 介護人材実態調査 集計結果(速報版) ・参考資料6 居所変更実態調査 集計結果(速報版) ・参考資料7 介護保険事業の状況について ・参考資料8 全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議資料 計画部分抜粋 ・意見書

会議の要旨

1 開会

辻主査

定刻となりましたので、ただいまより八王子市社会福祉審議会 高齢者福祉専門分科会 第2回八王子市高齢者計画・介護保険事業計画策定部会を開会いたします。

なお、本日はグループに分かれてのワークショップを行います。進行の関係上、グループごとに座席を用意しております。

始めに、大井委員が前回欠席されていたため、簡単に自己紹介をお願いいたします。

大井委員

《大井委員挨拶》

辻主査

ありがとうございました。

続きまして、4月1日付で事務局に変更がございましたので、自己紹介をさせていただきます。

辻野主査

福祉政策課の辻野です。よろしくお願いいたします。

波多野主査

介護保険課の波多野です。よろしくお願いいたします。

吉村主任

高齢者いきいき課の吉村です。よろしくお願いいたします。

辻主査

続きまして、資料の確認をさせていただきます。

・次第

・資料1 各種調査の概要

・資料2 各種調査の結果について

・資料3 高齢者計画・第8期介護保険事業計画 進捗管理シート（調査結果反映版）

・資料4 ワーク「計画で目指す未来」

・参考資料1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 集計結果

・参考資料2 在宅介護実態調査 集計結果（単純集計）

・参考資料3 在宅介護実態調査 集計結果（速報版）

・参考資料4 介護事業所調査 集計結果（単純集計）

・参考資料5 介護人材実態調査 集計結果（速報版）

・参考資料6 居所変更実態調査 集計結果（速報版）

・参考資料7 介護保険事業の状況について

・参考資料8 全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議資料 計画部分抜粋

・意見書

以上です。不足の資料はございませんでしょうか。

参考資料7、8については、今回の部会では直接取り扱いませんが、計画策定に関わる内容になっておりますので、後日ご確認いただければと思います。

<p>杉原会長</p>	<p>次に会議の公開・非公開についてですが、八王子市社会福祉審議会条例施行規則第4条及び八王子市附属機関及び懇談会等に関する指針 第12に基づき、原則公開いたします。公開することが適当でないとき非公開の決定を行うこととなっております。</p> <p>会議録については要綱第10条に基づき事務局で調製いたします。調製後、会長のご承認をいただきます。</p> <p>また、今回はワークを実施いたしますが、その様子を事務局で写真に撮りたいと考えています。こんなふうにもみんなで計画をつくりましたという記録を残しておきたいためです。写真を計画冊子等に載せる場合は、皆様に改めてご報告いたします。</p> <p>それではここからは、八王子市社会福祉審議会条例第4条第3項及び第6条第6項の規定に基づき議事の進行を会長に委ねます。</p> <p>杉原会長よろしくお願いたします。</p> <p>本日の欠席委員は1名ですので、開催要件は満たしております。</p> <p>本部会は、原則公開となっております。</p> <p>なお、本日の傍聴者は3名です。</p> <p>それでは次第に沿って議事を進めて参りたいと思います。</p> <p>まず、報告 各種調査の結果について です。</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p>
<p>辻主査</p>	<p>2 報告 各種調査の結果について</p> <p>それでは、「資料1 各種調査の概要」をご覧ください。どのような調査を行ったかというものです。こちら第1回の部会でも簡単にお話しした内容でございますので、全部読み上げるのは省略させていただきますが、まずは、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、こちらが3年に1回65歳以上の方を対象に行っているもので、全国で大体同じ項目をベースに調査をしています。それに加えて、自治体独自の項目も加えております。例えば、近いうちに要介護になるリスクの高い人、フレイル状態の人がどのくらいいるのかといったことを確認するための調査です。</p> <p>続いて、2番目の在宅介護実態調査です。これは、要支援や要介護の方で、在宅で暮らしている方を対象にした調査です。お家で介護をする上でどのような問題があるか、介護をする家族のことも含めて調べるための調査です。</p> <p>そして、3番が介護事業所調査、市内の事業所の皆様にご協力いただきまして、例えば、人材不足をどのくらい感じていますかとか、どの程度の年齢の従業員がいますかといったこと、あとは、どういったことが理由で施設を移ることになったか、こういったことを調査して、介護現場での困り事を調べるほか、住み慣れた場所で暮らし続けるために必要なサービスを分析することを目的に行われている調査です。</p> <p>この介護事業所調査の中に、介護人材実態調査と居所変更実態調査がございます。</p> <p>そして、4番、在宅生活改善調査についてです。ケアマネジャー調査とも言いまし</p>

て、ケアマネジャーの皆様に調査を行ったものです。業務を行う上での困り事や、今のままでは暮らしの維持が難しい方についてお伺いすることによって、住み慣れた場所で暮らし続けるためのボトルネックを分析する調査です。3月29日までご回答いただきしており、現在集計をしている状況です。

さらに、今後の調査について、第1回の部会でもご説明しましたが、今年度もいくつかの調査を実施してまいります。

では、「資料2 各種調査の結果について」説明いたします。

先ほど言ったニーズ調査ですが、コロナの影響がどう出たかというところが、皆さんにとっても気になるかと思えます。まず、最初に示しているとおおり、外出頻度や行動範囲は、そこまで変わっていないように見えました。

ただ、「実際に転んだことがある」、「転ぶのが怖い」といった、足腰が弱っている傾向を確認するための質問では、前回よりかなり悪化しているという状況でした。

あとは、お口関係ですね。食べる、しゃべる、飲み込む、こういった機能に関するリスクが、かなり増加傾向にありました。例えば、一人で外出する程度のことは何とかやっているけど、人と会うことが少なくなった結果、笑ったり、いろんなものをバランスよく食べたりすることも減ってきた、そんな方が多いのかもしれませんが。コロナで人との交流が減ったことの悪影響は、こういうところに出ているのかなと見えてきます。

そして、いろんな活動への参加率が非常に低下しています。5ページでは、どんな活動に週1回以上参加しているかということをお伺いしたのですが、やはりどの項目についても、2019年の調査と比べて減っている状況です。

強いて言えば、収入があるお仕事をしている人は、前回より減りましたが、前々回よりは増えているということで、横ばいに近い状態です。

あとは、「今、健康ですか」、「今、幸せですか」という抽象的な質問ではありますが、皆さんの心の状態を調べる上でかなり大事な質問で、意外とこちらについては、大きな変化は見えてとれませんでした。

続いて、認知症への理解ですが、認知症の方や認知症がどういうものなのか正しく知って受け入れる、もしくは、自分が認知症になったとしても希望を持って暮らす、そういったことのために、正しい理解がとても大事なのですが、それに関する質問をいくつか新設しています。

例えば、「認知症になっても、人と関わりながら自宅で暮らしたいか」という質問や、「地域の人や自分が認知症の人をどれくらい受け入れられるか」という質問など、この数字をこれから良くしていくことが第9期計画では重要になってくると思います。

そして、「相談窓口を知っていますか」という質問がありますが、この数字があまり良くないということが問題であると感じています。特に、高齢者あんしん相談センターを知っている人は、この27.4%より多くいらっしゃるのですが、高齢者あんしん相談センターを知っていても、それが認知症の窓口でもあるということに結びついていない方がいます。そのあたりは周知に関する課題だと思っています。

続いて、8ページですが、こちらにも新しい質問で、「もし要介護になった場合に、ど

んなサービスを受けたいですか」ということを聞きました。緑色の線(再び自立した生活にもどるためのサービス)に注目してほしいのですが、70代前半までの中ではトップでした。70代後半からは、少しずつ落ちてきていますが、それでも全体の中での2位をキープしているという状態です。高齢者福祉専門分科会では何回か話題に出していますが、短期集中型のサービスで、1回何かできないことができて、また自分の力で元気になって、元の暮らしを取り戻せる、自分で自分を守る習慣を身につけるようなプログラムに対し、どれくらい需要があるのかを知るための質問でした。

元の暮らしを取り戻したいと望む方は多くいらっしゃる一方で、実際にはまだまだ使われていないという現状がありますので、実際にサービスを利用できている方の割合と比べると大きなギャップがあり、ここは市としてしっかり受け止める必要があると思っています。

90代以上になると、再自立を望む方は減っていきませんが、これは、年を取ったため、自分で諦めてしまっているのではないかなというのも一つ懸念されるところです。実際には、90歳を過ぎてからでも、3か月で元の暮らしを取り戻した方もいらっしゃいますが、まだまだそういったことの周知が足りないと感じています。最後は本人の選択となりますが、そのための必要な情報提供も我々はしていく必要があるということ、ここから読み取っております。

今、軽度の場合の話をしました。次のページではより重度になった場合のお話をしていきます。本人の望みがどこにあるのかということ、今、元気な方々に聞いたものです。「どこで亡くなりたいか」、「重度になった場合、どういったところでケアを受けたいか」ということを聞いております。

続いて、在宅介護実態調査についてです。ご自宅で介護を受けている方、介護をしている方への調査ですね。

やはり介護をする上で不安に感じているものという、認知症の症状への対応と夜間の排せつというふうになっております。

こういった症状について、一人で、自宅で介護し続けることに不安を感じている方が多いのですが、例えば、訪問系のサービスを多く使っている人は、相対的ですが、その不安をあまり感じていないといった傾向があります。

そして、仕事と介護の両立についてです。こちらも重要なテーマですが、仕事と介護の両立が難しくなる要因として、夜間の排せつを挙げる方が多かったです。当然夜眠れず、何度も起きなければならないと、お仕事を100%の力でというのは難しいでしょう。あとは、外出の付き添い、送迎などは長い時間共に過ごす必要があるので、仕事との両立は、やはり難しいことになっています。

こちらも、訪問系サービスを利用しているかどうかで、不安を感じている人の割合は変わっていきますので、こういったサービスを上手に使ってもらう、もしくは、上手に使えるようにサービスの供給を考えていく、こういったことが住み慣れた場所での介護を継続させるための鍵になるのかもしれないと思っております。

ただ、在宅介護実態調査については、サンプル数がまだまだ十分でないために、統計

	<p>的な信頼性の面では、十分ではないと思っています。</p> <p>それでも、今私が申し上げたことは、実は国が全国の傾向を見て分析した結果とほとんど同じ内容になっています。そのため、数が少ないといっても、全国的に共通した心理である可能性が高いと思っています。</p> <p>こういった調査をさらに細かく見ていきながら、どうやったら介護する人も、される人も、無理なく地域で、今の暮らしを続けられるのかということを見ていきたいと思っています。</p> <p>続いて、介護人材実態調査です。こちら（15 ページ）は、正規職員・非正規職員の割合で、見てのとおり、サービスの種類によって割合に違いがあります。</p> <p>この調査の中で、私が個人的に一番衝撃を受けたことが年齢の構成です。50 代、60 代、70 代の女性が全体のボリュームゾーンとなっています。70 代の女性は 22.5% ですが、10 年後にどうなっているかということ、なかなか今と同じ仕事を続けるのは難しい方が多いのではないかと思います。</p> <p>2040 年に向けて、介護人材の不足が深刻化すると言われていますが、2040 年より前に、70 代、60 代の人々が辞めてしまった場合のことを真剣に考える必要があるというのが、今回見えてきたところです。</p> <p>あとは、主観的、肌感覚で「人材不足は厳しいですか」という質問をしています。これは、3 年前の調査から継続して、八王子市全体での介護の人材不足の状況を図るための質問としています、これも関連集計結果は皆様に参考資料としてお配りしているので、ぜひ見ておいていただきたいと思います。</p> <p>居住変更実態調査も集計結果を参考資料としてお示ししたとおりですが、今回は、個別に読み上げることは省略させていただきます。今何%という数字だけを見て、高い、低いといった評価は難しい問題ですので、ほかの自治体と比べて高いのか、低いのか、過去と比べてどうなのかといった横軸や縦軸をつくった上で比較を行いながら、課題を抽出していこうと考えております。</p> <p>調査結果のご報告については、以上となります。ありがとうございました。</p>
杉原会長	<p>ご説明ありがとうございます。では、ただいまの説明について、ご意見、ご質問等ございますか。</p>
田中委員	<p>こういう調査は国の基準で行う必要があると思います。それが、だんだんエビデンスにつながっていくわけです。ですから、ぜひ、毎年、3年に1回でも良いですけども、とにかく継続してその調査の結果を積み上げて、エビデンスにしていくというようなことを考えていただければありがたいですね。</p>
辻主査	<p>ありがとうございます。3年に1回の調査と別に、毎年実施している75歳以上の方全員に向けた調査や、今年度から様々な調査結果を結びつけるようなやり方を一緒に研究していくことも考えております。</p>

杉原会長	<p>今回の計画でも、データに基づいて計画の見直しをすることは、事業を改善する鍵になってくると思うので、そういった視点を入れたいと思います。</p> <p>そのほか、ご質問はありますか。</p> <p>はい、よろしく申し上げます。</p>
香川委員	<p>香川です。スライド5ページの年度推移をどう見るかですが、コロナの影響なのか、コロナとは関係なしに八王子市の傾向としてあるのかという切り分けをする必要があると思いました。2016年より前の結果が2回分くらいあると傾向が分かると思います。非常に特異な時期で、コロナの時期はどうしても外に出ないというか、対面の時間を減らそうという意識もあるし、国からの指導もあったので、数値の低下は当然のことですよ。そのあたりを見極めないといけないと思っています。以上です。</p>
辻主査	<p>確かに、前回より減っているということは、誰に聞いても当たり前と思うところだと思いますので、さらに遡った分析や、ほかの自治体と比べて八王子の変化が特殊かどうか比較するといったことも含めて、より精度の高い分析をしていこうと思います。ありがとうございます。</p>
杉原会長	<p>そのほか何かございますか。</p> <p>では、私からも1点。このニーズ調査の結果ですが、八王子は非常に広く、21圏域ございますので、圏域ごとに分析した結果を地域包括支援センターにフィードバックするというような計画は今後お持ちでしょうか。やはりそれぞれの圏域の特徴をセンターの方もお知りになりたいかなと思います。</p>
辻主査	<p>そうですね、圏域別のクロス集計表を作る準備をしているところです。</p>
杉原会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>何かほかにご質問等ございますか。</p> <p>では、次の話題に移ります。</p> <p>続きまして、議題「計画で目指す未来」についてです。事務局から引き続きご説明をお願いします。</p>
辻主査	<p>3 議題</p> <p>それでは、先に資料3について、説明させていただきます。</p> <p>8期計画の目標値を設定した中で、今回のニーズ調査で数字が増えたものがあります。黄色く網かけしてあるところが、今回数字が出たものです。</p> <p>先ほど申し上げたとおり、体力とか、お口の機能といったフレイルの兆候に関係するところは、前回と比べて軒並み悪くなっているという状況が見えてきます。</p>

また、注目したい点が、持続可能性確保と書いてあるところですね。介護人材の不足を感じる事業者の割合を聞いております。これも計画の中での重要な指標の1つにしていますが、不足を感じている事業者の割合自体は前回より少なくなっています。

一方で、生産性がどのくらい上がっているか、ここでは、生産性とは一人当たり無理なくできる仕事の量がどのくらい増えているかということを指しますが、今までより業務の効率が良くなったとはっきり感じられている事業所は、全体の2割程度となっています。

また、介護人材を増やしていくことが難しい中で、どうやってみんなが無理なく仕事ができるようにするかということを考えるうえで、この生産性の向上が今後、鍵となりますが、まだまだ市の努力が必要であると思っています。

では、資料4の説明をさせていただきます。

今回、グループワーク形式で実施するというので、ワークの目的を最初にお話ししたいと思います。ビジョンに基づくゴール共有をして、ロジックに基づくルート設定をするのですが、簡単に言うと、どんな未来を目指していくかというのが、このビジョンです。いろいろな団体から推薦された皆様や、公募の市民の方も含めて、様々な背景をお持ちの方がいらっしゃると思います。でも、こういう未来をつくりたいねという、ある程度みんなで共感できるようなビジョンを一緒に描くことが重要だと思っていますので、そのためのワークを行います。

計画をつくったら当然部会自体は終わりになりますが、計画をつくるのが目的となつてはもったいないと思っています。ここにいろんな立場の皆さんが集まっているので、私たちがどんな未来の八王子をつくろうか、計画をつくった後で、それぞれの団体の中で、いろんな活動をしていきたくなるような、そんな計画にしたいと思っていますので、皆さんの思いを込めたビジョンを描きたいと思っています。

具体的にどのようにつくるかといいますと、ロジックモデルというものを計画全体で重視していきます。スライド3枚目の右側は、全体ロジックモデルです。例えば8期計画だと、生涯現役のまちというものをみんなで考えましたが、そういう目指すまちの姿に向けて、どういうことが必要か、これを実現するために、これが必要なかということをつつくりの言葉で表します。それを実現するためにどうなっていれば良いのかということとその左側に示していくものが全体ロジックモデルです。これは制度の全体を分かりやすく示すようなイメージです。例えば、目指すまちの姿に向けて必要なものの1つ（全体ロジックモデルの左側の項目）として、「再自立を目指すサービスがちゃんと使われて効果を発揮している」という内容があったとしたら、それをどうやって実現するかというのが個別のロジックモデルです。それを実現するためには、これとこれが必要、だから、こういう状態を達成する、そのためにこんな事業が必要、そのように全体と個別で分けてロジックモデルをつくっていきます。そして、全体ロジックモデルの右側、つまり計画でそもそも何をを目指すのか、そのためにどんな状態を達成したいのかという、ゴールを考えるためのワークが今回です。

参考までに、スライド4枚目にこれまでの計画でのビジョンに当たるものを示してお

ります。基本理念という言葉で載せてありますが、今の第8期計画だと、「いつまでも『望む生活』を送ることができる生涯現役のまち八王子」を指し、それを実現するための3つの基本方針が出ております。

今日のワークをもとに、こういう未来をつくりたい、そのために頑張りたいと思えるものをつくるのが重要だと思っております。

こちらも参考ですが、八王子市の基本構想、市の1番上位の計画で、目指すまちの姿を示したものです。高齢者関係の目指す都市は、2つ目の「健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち」となっています。

ただ、例えば、高齢者の幸せないきいきとした暮らしのために、お仕事をもっと大事だというのであれば、産業の話もきっと出てくると思いますし、そもそも外出できなければどうしようもないというのであれば、交通の話もきっと出てくるだろうとか、様々な視点でお考えください。

ワークは、各グループに一人ファシリテーターをお願いしています。

スライド6枚目のワーク1についてですが、そのままだとどうなるかという未来の予測をしていただきます。データも今回お示ししていますし、皆さんの経験でも、このままだと2040年はこんな感じになってしまうのではという危機感を抱いていらっしゃる方もいると思いますが、それを黄色い付箋に書いてもらうというものです。

そして皆さんが書いた黄色い付箋を見ながら、こんな未来になっていたらいいなということ、今度はピンクの付箋に書いていきます。具体的にどう解決するかというお話でなくて大丈夫です。例えば、黄色い付箋で介護人材が足りないと出てきたら、ピンクの付箋でどうやって介護人材を増やすかという具体的なことは書かなくていいので、どちらかという、介護人材が足りないと何で問題なのかということを考えてみてください。介護人材が足りないとなぜ困るのかという、困り事を抱えた人が助けてもらえないから困る、そうなるのであれば、困っている人が助けてもらえる社会というのが、このピンクの付箋になる、そのようなイメージで考えてください。

これを個人作業、グループ共有という形で実施していただくのですが、この先の作業が少し難しいワークになってくると思います。皆さんご自身の経験から付箋を作ったりすると、例えば、「町会・自治会をもっと活性化すべきだ」という具体的な付箋もあれば、もっと抽象的な「高齢者がいつまでも自分らしく暮らせる」といった付箋も出てくると思います。それを全部並べてしまうと、ゴールの整理がしづらくなるので、より具体的なものと抽象的なもので、少し軸を分けるように考えています。

あとは、付箋と付箋の間に、もしかしたら手段と目的の関係があるかなというものも、きっと出てくると思います。例えば、介護人材確保という付箋があったとして、それが何で大事なのかを改めて考えると、「誰もが必要なサービスを受けられる」という、ほかの付箋につながっていくかもしれません。そういう矢印を引きながら、適宜新しい付箋を足したりして、付箋を整理してください。そうすると、右のほうに、より計画の目的として表現したいような言葉が多く載ってくることになるかと思っております。これを見ながら、最後に、「私たちのグループとしては、こんな未来がいいと思います」と

	<p>いうのを3つまで設定してください。今回は、そういった4つのワークを実施しようと思います。</p> <p>このグループの進行については、事前に各グループお一人、ファシリテーターをお願いしておりますので、ファシリテーターにも頼り、事務局にも聞いていただきながら実施してもらえればと思います。</p> <p>そして、このワークについては、事務局がメモ係として入らせていただきます。あとは、話の流れの中で、そういう課題だったら、実は、市の事業が来年始まるとか、今、国でこういうことを言っているなど、適宜我々の知っていること、持っているデータで役立つものがあれば提供いたしますので、よろしくお願いします。</p> <p>最後に、2回目に会う方々と一緒に話すのは緊張すると思いますが、あまり身構えないで、自分の経験や、素朴な考え方など、遠慮せずにどんどん声を上げてください。人と違う意見もどんどん言うことが、大事なことだと思いますので、積極的に発言してください。あとは、杉原会長に全体の進行をしていただきますので、よろしくお願いいたします。</p>
杉原会長	<p>ご説明ありがとうございました。ただいまの説明についてご意見やご質問等はございますか。大体の流れは、皆さんつかめたということでしょうか。</p> <p>では、ここから3グループに分かれてワークを行います。グループごとの進行は、各グループのファシリテーターに委ねます。全体のタイムキーパーと、グループAのファシリテーターは私が行います。グループBの進行は、村山副会長、グループCの進行は大井委員にそれぞれお願いいたします。</p> <p>まず、ワーク1、アンケート結果や前回示したデータ、また皆さん自身の経験などから、将来を予測し、そのままだとどうなってしまうかということ5つまで、黄色の付箋に書き出してください。今から4分間、机上の時計で14時44分までお願いいたします。</p> <p>《グループワーク》</p>
杉原会長	<p>それでは、発表に移りたいと思います。</p> <p>皆様、短時間でしたが熱い議論を、熱く実践してくださってありがとうございました。</p> <p>それでは、各グループからの発表をお願いします。</p> <p>1グループ当たり2、3分程度でよろしくお願いします。</p> <p>では、Aグループから、よろしくお願いします。</p> <p>《Aグループ発表》</p>
島崎委員	<p>それでは、Aグループの発表をさせていただきます。よろしくお願いいたします。民生委員の島崎と申します。</p>

<p>杉原会長</p>	<p>Aグループでは、まずは、認知症とか病気になってもやりたいことを諦めないような高齢者の方、それから、そういう高齢者が認知症や病気になっても社会参加ができるような世の中、そして、そういう高齢者の人たちの力も発揮できる世の中が良いという意見です。</p> <p>最終的な目的、目標としては、「一人一人、個人が自立できる長寿社会」、「高齢期の不安が少なく、生きがいのある、明るく、楽しく、元気よきの社会」、そして最後に、「地域全体が思いやりであふれる社会」を目指すということにまとまりました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>では、続きまして、Bグループ、発表をお願いします。</p>
<p>村山副会長</p>	<p>「Bグループ発表」</p> <p>Bグループは、黄色い付箋は、たくさんの意見が出ました。やりたいことをやろうという気持ち、このコロナで萎えてしまっているといった話や、孤立とか孤独とか、希薄な地域社会の問題というのでも出ました。それから、施設関連でいうと、人材不足という点について、たくさんの方々から意見が出ました。</p> <p>それから、全体的に、社会不安、生活不安、収入不安など、いろんな不安があるのではという話や、八王子ならではかもしれませんが、市部と市部じゃないところの格差をどう考えていくかということも、黄色い付箋として挙がりました。</p> <p>そこから、ピンクの付箋のほうに抽象度を上げていきましたが、1つは、高齢者の再自意識を、みんなが持てるような、そういう社会が良いという話になりました。データでも、90歳以上の方々が、再自立していくようなサービスを使うという人が少ないという話がありました。そのためには、公のサービスと地域の資源、地域の人たちが頑張るといふ2つの部分があるのかなという話になりましたが、地域の人々というのは、困ったときに、ちゃんと相談できるような、そういう仕組みが必要だということです。</p> <p>それから、公のサービス、市役所、社協など、得たい選択肢を十分に整えることが、大事だと思います。</p> <p>また、2つ目は、やりたいこと、あるいは、その人のニーズが満たされている、そういう状態が大事だという話になりました。</p> <p>そのためには、介護人材不足という問題もそうですが、収入がないとか、仕事がないという人たちに対して循環をつくり出す、例えばマッチングの仕組みや、高齢者の就労の仕組みが挙げられました。</p> <p>そして、お互いを尊重し合えるとか、未来、将来に対して、希望が持てるような社会という言葉も出ましたが、つながらない部分がありました。Bグループの目指していきたい未来は、先ほど述べた2点です。以上です。</p>
<p>杉原会長</p>	<p>発表ありがとうございました。</p> <p>次に、Cグループよろしく願いいたします。</p>

大竹委員	<p>《Cグループ発表》</p> <p>Cグループです。</p> <p>Cグループは、Aグループ、Bグループと比べてより抽象的です。</p> <p>まず、楽しいところに人が集まりますので、そういったところから考え方を発展していこうという流れになっています。</p> <p>目指していきたい未来として決まったことは3つあります。1つ目は、「もっと大好きになれる八王子」、2つ目は、「出会いのまち八王子」、3つ目は、「活躍できるまち八王子」です。その中からどんなものをしていけばいいかな、そんな話の流れでした。</p> <p>例えば、もっと大好きになる八王子になるためには、どういうものがあれば良いかとなったとき、病気にさせないこともそうですが、若い人が楽しく、幸せに生活ができるとか、フレイルを失くす努力をすとか、高齢者を応援するチームをつくるとか、こういったものが挙がりました。私が一番推しているのは薬局の活用となっております。</p> <p>次に、活躍できるまち八王子ということで、高齢者の方も活躍できる場所をつくる、例えば、企業を誘致して、スタジアムを設置すとか、就労支援、あと、働きたい高齢者がちゃんと待機しているとか、得意分野、昔どういったお仕事をしてきたのかといった情報を把握するといったことが挙がりましたが、破格の介護手当、そして破格の子ども手当があると、活躍できるまち八王子につながると思いました。</p> <p>最後、出会いのまち八王子ですが、高齢者の問題は、いろいろあります。病気の問題もそうですが、孤独も問題の1つです。孤独にさせないために、どうすれば良いかという、高齢者向けの再婚支援や、夜間デイサービスのほかに、飲み屋、特に移動式の居酒屋をつくることで、介護者の息抜きの場も提供できます。あとは、空き家を活用して、学生とシェアハウスして、学生と飲んだり、町会単位で相談できる場所をつくって、ここで飲んだりとか、全部飲んでばかりの出会いのまち八王子になる。</p> <p>以上です。ありがとうございました。</p>
杉原会長	<p>熱く語ってくださり、ありがとうございました。それでは、これで今日のワークは閉めさせていただきます。</p> <p>最後に、私からまとめのコメントです。今、話題のチャットGPTに、いろんな情報を入れたら、もっともらしい目的3つをすぐに出してくれるとは思いますが、でも、それともっともらしいですが、非常に空虚な目的にしかならないと思います。</p> <p>今、人工知能ならぬ人類の英知を結集して熱く議論しましたが、結果、血の通った、温かい目的がたくさん出てきて、これからこの目的を達成するために、どんな計画を考えようかという、とても景気づけになるようなすばらしい時間が持てたかと思えます。本当に短時間でしたが、ご協力ありがとうございました。</p> <p>では、事務局から、よろしく申し上げます。</p>
吉本課長	<p>高齢者いきいき課長の吉本です。</p> <p>皆さん、限られた時間の中ではありましたが、非常に活発にご意見を交わしていただ</p>

	<p>きまして、また、熱い議論が各グループで行われていまして、本当に私どもとしても、期待以上のワークになったと思っています。</p> <p>それぞれグループで目標を掲げていただきました。これはまた改めまして、我々事務局で読み直してみても、どういった形を文言に表していければ良いのか、その辺りも考えながら、また次の部会でご提案できましたら幸いです。</p> <p>特にCグループは個性的な意見も出ていたので、非常に私も楽しく聞かせていただきました。本当にありがとうございました。</p>
杉原会長	<p>では、事務局から連絡事項をお願いします。</p>
辻主査	<p>4 事務連絡</p> <p>次回開催日程は、7月12日（水）午後2時から4時までを予定しています。</p> <p>詳細につきましては、開催日の約1か月前に開催通知を送付しますので、日時・会場等ご確認のうえ、ご出席をお願いします。</p> <p>本日の会議内容についてご意見等ございましたら、配付させていただいた意見書を、1週間以内にメール、郵送、FAXまたは直接事務局までお送りください。</p> <p>また、本会議の会議録については、後日各委員に内容確認のためメールで送付させていただきますので、ご確認をお願いいたします。</p>
杉原会長	<p>5 閉会</p> <p>ありがとうございました。それでは、以上で本日の会議は終了いたします。</p>